更生刻々

第６号
令和３年４月１日発行

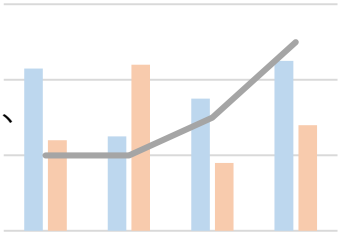
東京矯正管区
Tokyo Regional Correction Headquarters
法務省東京矯正管区更生支援企画課
☎048-600-1560（直通）
✉ 1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp
ホームページ
http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00101.html

お任せください　　更生支援企画課

皆様こんにちは。東京矯正管区更生支援企画課です。
新たな年度を迎えましたので、当課がいったい何者なのか、どんなことができるのか、改めてご紹介させていただきます。

①　地方再犯防止推進計画、再犯防止関係事業、お手伝いいたします。

「地方計画の策定ってどうすればいいの？」
「再犯防止関係の事業を始めたいけど、どう進めればいいんだろう？」
「うちの再犯状況ってどうなっているんだろう？」
などなど、当課にご遠慮なくご相談ください。
都道府県ごとの矯正施設入所者に関する統計のほか、警察署ごとの犯罪統計データ*を提供できます。



※2017～2019年の3年分、成人のデータのみ

②　セミナー講師、お任せください。

「再犯防止について、庁内関係職員や地域住民に理解を深めてもらうための研修・セミナーがしたい」
当課にお任せください。再犯防止全般、薬物依存、少年・高齢者犯罪などなど、テーマに応じて最適な講師を、もちろん無料で派遣します（業務の一環ですので、謝金・旅費等一切不要です）。
この３年間で、皆様からのご依頼に応じて派遣した講師はのべ１８名。オンラインでもオフラインでも、１５分でも１２０分でも、ご要望に応じて対応いたします。

③　矯正施設との橋渡し、いたします。

「矯正施設の中を見てみたい*」
「刑務所に何か製品を発注することはできるの？」
当課が管内矯正施設と調整します。再犯防止事業のほか、地方創生策の一環として、矯正施設をぜひご活用ください。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、矯正施設の見学についてはご要望に沿えない場合があります。あらかじめご了承ください。

更生刻々

横浜刑務所福祉専門官　日向　さん

「自分だけでなく、多くの人が関わって一人の人を支援していく」

更生支援を語る

病院におけるソーシャルワーカーとしての勤務を経て、平成30年4月から横浜刑務所の福祉専門官として、受刑者等の社会復帰支援に当たる。

どうして福祉専門官という仕事を選んだのですか？

祖母が保護司をしていて、罪を犯した人の更生を支援する仕事に昔から関心がありました。当時勤めていた病院の仕事もやりがいがあったのですが、横浜刑務所で福祉専門官の募集があると妻が教えてくれて、応募してみようと思ったんです。

福祉の仕事を志したのも、祖母が認知症になり、その介護に携わったことがきっかけでした。今思えば、祖母の導きみたいなものがあったのかもしれません。

福祉専門官の仕事はどうですか？

横浜刑務所は、「LB」と呼ばれる、刑の期間が長く、比較的犯罪傾向が進んだ受刑者も収容される施設です。彼らの社会復帰を支援することは、相応の困難がありますが、その困難さがやりがいになる、と思って仕事をしています。

特に最近は、いわゆる就労と福祉の狭間に落ちてしまう人たちに対して、農福連携などに取り組むソーシャルファームなど、比較的新しい社会資源につなぐことにも力を入れています。

印象に残っている人はいますか？

てんかんの発作がひどくて、突然暴力的になったり、記憶が飛んだりするような人がいました。まずは医療的な措置が必要と判断して、医務部と連携して、医療施設に移送してもらい、集中的に治療をしてもらったんです。その甲斐あって、横浜に戻ってきたときには劇的に症状が改善していました。そこから福祉的な支援をスタートして、それまで暴れて懲罰を受けたりしていたのですが、生活も落ち着き、なんとか社会資源にもつなぐことができました。

そうやって、自分だけでなく、多くの人が関わって一人の人を支援していくことができるのは、大きなやりがいになっています。

福祉面接をする日向さん

※　受刑者役は職員です

更生小考　⑤高齢初犯

「きれいは汚い」「汚いはきれい」。幕開けの雷鳴とともに現れた魔女たちが言う。「マクベス」の有名なセリフである。光と影のような言葉だが、価値観の相対性・流動性を暗示している。コロナで社会風景が変わった。「Go To トラベル」など言葉の新常態も登場した。言葉は「かつ消え、かつ結びて」であるから、時の「ふるい」で選別される。言葉の動的平衡といえる。

高齢初犯者と呼ばれる人たちがいる。それまで長い人生を罪を犯すことなく生活してきただろうに、なぜ？　昨年1年間の刑法犯検挙数は19万2,607人。６５歳以上は4万2,463人。高齢者犯罪で目立つ万引きと暴行を、初犯者と再犯者の別で見てみよう。万引きは、平成22・23年は初犯者が再犯者を上回っており、以後、初犯者は減少傾向にあるものの、高い水準にある（昨年初犯9,166人、再犯13,101人）。暴行は、この１０年初犯者が再犯者をずっと上回っている（昨年初犯2,594人、再犯1,659人）。

社会からの孤立は、いきおい犯罪だけが社会とのつながりとなる。経済環境、家庭環境、心理的環境。複数の要因が絡む。価値観が転変する中で、生産性が優先されるようになった社会の周縁に追いやられ、動的平衡を見失った人たちも少なくないはず。

矯正の在り方について、「外に向かって開く」というモーメンタムを保ち続けないと「環境の変化に自らを適合させる能力＝自己革新力を失う」と戒めた人がいる。これは、矯正の世界の動的平衡のことにほかならない。語ったのは、名古屋刑務所事件で検察畑から矯正局総務課長に異動、組織の立て直しと監獄法改正に力を尽くした林真琴新検事総長。毎日新聞取材での社会復帰へ続く刑事司法の長い道のりについての言葉がある。「刑事司法は再犯防止を実現して完結する」。

更生支援企画課長

4月1日付けで交代しました。

着任　佐々木　陽介

４月１日付けで更生支援企画課に着任いたしました。昨年度は、同じく東京矯正管区において少年矯正の分野に従事しておりました。当課業務は初めて取り組む分野でありますが、刑務所出所者等の再犯防止の推進については、極めて重要な取組であると考えております。

再犯防止の推進については、地方公共団体の皆様をはじめ、関係機関の皆様とはスクラムを組み、一丸となって取り組みたいと考えておりますので、御指導、御協力のほどよろしくお願いいたします。

離任　滝浦　将士

昨年６月に発刊した当紙「創刊号」において着任の御挨拶をしてからわずか１年ですが、この度４月１日付けで異動することになりました。短い期間でしたが、地方公共団体の皆様（住民の皆様）の目線から矯正施設を見ることにより、私たちに求められていること、やるべきことを改めて認識できたことは、私自身にとっても大変勉強になりました。令和元年１２月に決定された再犯防止加速化プランにおいても、「地方公共団体との連携強化の推進」が求められているところですので、引き続き当課に対して御理解と御支援のほどよろしくお願いいたします。